

# 自彊前進

題字 西村直子

NO. 32 令和5年11月9日(木)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと  
(校歌3番の文言から)

## 音楽のつどいに向けて

音楽のつどいに向けて、各学級の練習にも熱が入ってきています。公立の一般校では、「合唱祭」「合唱コンクール」と呼ぶことが多い行事ですが、当校は「音楽のつどい」と呼んでいます。りゅーとびあを会場にし、多くの保護者を入れて開催しています。

創立50周年記念誌『創造の半世紀』に、昭和54年度から4年間当校で音楽の教諭としてお勤めになられた浅井政尾先生が、「音楽のつどい」について寄稿なさっています。当時の様子が知れ、とても興味深いので紹介します。

盛り上がった音文での音楽のつどい

浅井政尾

(S54～S7)

私が赴任した年の音楽のつどいは、体育館の側面に卓球台などを並べた即席のステージで行われていた。体育館にはステージが無かったからである。今はもう当たり前になつてしまつたが、当時ではまだあまり行われていない校内合唱コンクールのスタイルで、生徒たちは自主的に生き生きと活動していた。しかも、合唱コンクールとは言わず、「音楽のつどい」と銘打たれたことに附中の心が示されていた。

しかし、あの生徒たちの熱意の発表の場があの場合では…と思いできたばかりの音楽文化会館で行うことを思い立った。移動のことで、費用のことなど、いくつかの問題点があつたが、先生方の賛同と、音文の特別な配慮で、ついに五五年からは音文で行うことになったのだつた。

音文で行うということで、生徒たちはより質の高い音楽会にしようと思ふ燃え上がり、かつてない音楽のつどいとなつた。それまではできなかつた保護者への案内もでき、多数の聴衆が大きな拍手を送ってくれたのももちろんである。



昭和63年度卓球台で作成したステージで発表する様子



昭和27年度の様子



昨年度の音楽のつどいの様子